

Grand Toit News

Grant News

vol. 48
Winter 2016



企画展紹介

「スーパーバトルからクールビューティーまで、
なんでもこいの天才絵師、見参！」

劇場事業紹介

「今福 優 新春太鼓祈願 一つなぐー」 イベントカレンダー 2017年1月～3月

●特集 赤瓦、赤瓦、赤瓦プロジェクト
ここにしかない赤瓦ランドだからこそ!!

●「もうすぐ出番です！」 栗山文昭 (合唱指揮者)

お正月は
2日(月)から開館!



《隆盛龍城攻之図》 明治10年(1877)

「激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」というのは凄味のあるサブタイトルですね。芳年とはどんな絵師ですか？

まさに凄味のある絵を描く人です。「激動の時代」とは、幕末の動乱から明治維新を経て日本が西洋化、近代化を目指した時代のことです。芳年が15歳でデビューしたのはペリーが浦賀に来航した嘉永6年(1853)、54歳で亡くなったのが日清戦争の前々年にあたる明治25年(1892)、というと分かりやすいでしょうか。

人気浮世絵師、歌川国芳に入門した芳年は、初めは師匠の作風を踏襲した武者絵や役者絵を描いていました。芳年の「凄味」が出てくるのが大政奉還の前年、慶応2年(1866)の《英名二十八衆句》です。兄弟

子の落合芳幾と14点ずつ競作した、刃傷沙汰、流血の場面ばかりのシリーズで、芳年が「血みどろ絵師」とよばれる由縁となりました。芳幾の作も含めこのシリーズを全点展示するのが、本展の大きなみどころです。

ちょっと怖そうですね。衝撃的な絵が多いのですか？

いえ、そうした怖ろしい絵はごく一部で、アクション映画のワンシーンを切り取ったようなドラマチックな歴史画や、粹で艶やかな美人画、ユーモラスなお化けの絵なども楽しめます。月をテーマにした晩年のシリーズ《月百姿》は、しみじみとした情趣にあふれた名作です。全体としてはクールな印象を受けるのではないのでしょうか。

また、鉄道など文明開化の光

なんでもこいの天才絵師、見参!

企画展「芳年」について、展覽会担当の川西由里専門学芸員に見どころをささました。

景や、西南戦争を主題とした絵から、グラビア雑誌やテレビのない時代に、浮世絵が目で見えるニュースの役割を果たしていたことも知ってほしいと思います。とはいえ、《隆盛龍城攻之図》などは報道というよりも、噂を元にした芳年の創作のようなものですが。

この西郷隆盛には驚きました。ファンタジー映画のようですが、時事ネタなんですよ。芳年の絵は社会の動きとあわせて見ると、より楽しめそうですね。

今年夏の企画展で紹介した洋画家、原田直次郎の歩みと比べても面白いですよ。展覧会が別々なので違う世界の人のように思えますが、二人は同じ時代を生きています。人気絵師となった芳年が《隆盛龍城攻之図》を描いたのは、原田の師、高橋由一が代表作《鮭》を



(左)《英名二十八衆句 因襲小僧六之助》 慶応2年(1866)
(右)《月百姿 はかなしや波の下にも入りぬべし津きの都の人や見るとて有子》 明治19年(1886)



描いた日本洋画の草創期です。この時、原田はまだ入門前の14歳でした。原田が油彩画の技術を携えてドイツから帰国した明治20年(1887)は、芳年は円熟期を迎え、《月百姿》シリーズが刊行中でした。そして芳年が亡くなった明治25年は、原田は多くの弟子を抱え意欲的に制作をしていた時期であると同時に、病の影が忍び寄っていた頃でもありました。浮世絵と洋画の違い、江戸の文化を近代的に発展させた者と、西洋の芸術を日本に広めようとした者、という違いはありますが、描くことに命をかけて激動の19世紀末を駆け抜けたという点は同じです。お互いの作品は見ていたことでしょうし、東京のどこかで会っていたかもしれませんね。

YOSHI
TOSHI

芳年

企画展

激動の時代を生きた鬼才浮世絵師

《芳流開闢雄勳》(部分) 明治18年(1885)頃

開催記念講演会
「芳年と芳のつく絵師たちの時代」
12月24日(土) 14:00～15:30
[講師] 木下直之(東京大学教授、文化資源学)
[会場] 講義室
[定員] 当日先着50名
聴講無料/申込不要

関連プログラム

芳年展 × 伝統芸能まつり
展示作品にちなんだ演目を様々な芸能で楽しむ、Grant Newsならではの特別企画!
① 浮世絵 × ダンス × 石見神楽「ウキウキ浮世絵、ヨシヨシ芳年」
1月22日(日) 14:00開演(13:30開場) ※詳細はPICK UP EVENTをご覧ください。
② 益田糸操り人形公演「伊達娘恋の緋麻子 八百屋お七の段」
1月28日(土) 14:00～ [出演] 益田糸操り人形保持者会 [会場] 美術館ロビー 鑑賞無料
③ 平家の語りと琵琶の調べ
2月5日(日) 11:00～/14:00～ [出演] 荒尾 努(平曲語り奏者) [会場] 美術館ロビー 鑑賞無料

2016 12/23(金) 祝 ▶ 2017 2/13(月)

[開館時間] 10:00～18:30 (展示室の入場は18:00まで)
[休館日] 毎週火曜日(ただし1月3日、1月31日は開館)、12月28日～1月1日
※年末は12月26日(月)まで、年始は1月2日(月)から開館します。
[観覧料] 当日券/一般:1,000(800)円、企画・コレクション展セット1,150(920)円
大学生:600(450)円、企画・コレクション展セット700(530)円
小中高生:300(250)円、企画・コレクション展セット300(250)円
前売券/企画・コレクション展セット900円

※()内は20名以上の団体料金 ※小中高生の学校利用は入場無料
※障害者手帳保持者および介助者は入場無料
※前売券は、ローソン各店(Eコード62455)、主な旅行会社、各プレイガイドでお求めいただけます。
[主催] 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、BSS山陰放送、山陰中央新報社、中国新聞社
[後援] 芸術文化とふれあう協議会 [助成] 芸術文化振興基金
[企画協力] 神戸新聞社、株式会社アートワン

島根県立石見美術館

島根県芸術文化センター「Grant」内

今福優 新春太鼓祈願

「つなぐ」

若手太鼓打ちが全国各地よりグラントワに集結。今年も大きな福をいただきますように！



大江戸助六太鼓 島根初上演!

毎年恒例の「今福 優 新春太鼓祈願」。今回は、例年とはまた一味違った内容でお届け致します。東京より大江戸助六太鼓を招聘して、江戸っ子の粋な心意気を体現した和太鼓を披露。さらに、「つなぐ」をテーマに今福 優さんを慕う若手太鼓打ちが全国各地(北海道・東京・富山・石川・大分・島根)からグラントワに集い、大太鼓の共演で新年を祝います。

「和太鼓」の伝承に向けて

今福 優さんの活動の一つに和太鼓の伝承があります。自家用車に太鼓を積んで小学校、中学校、高校、そして一般の皆さんのもとに出向いて行き、和太鼓の魅力を伝える活動を始めて20年。走行距離は90万kmを越えました。今福 優さんの太鼓指導は簡単明瞭です。「間違えてもいい。この一瞬を大切に思い切り打つ!!」。「昭和の親父」そのままに実直な人柄と、大きな声で真正面からぶつかって行く一所懸命な姿に皆が共感し、いつの間にか今福ワールドに引き込まれています。

今まで、そしてこれから

今福 優さんのもう一つの活動として創作活動があります。



太鼓曲の作曲はもちろんのこと、平成21年に披露し好評を得た「神楽ボレロ」は再演が待たれるところ。代表曲「生命の詩」には歌バージョンと太鼓バージョンがあり、歌詞は今福さんの生き方に対する想いがストリートに表現されていて、聴衆の心を打ちます。

♪生かされている自分に
気付いてごらん♪

♪いのちのうたを

地球の底からうたうんだ♪
創作活動に加えて、還暦を迎えた今福 優さんが新たに挑戦しようとしているのが「つなぐ」ということです。「人と人」、「未来」、「夢」…。あらゆるものを、和太鼓を通じて「つなぐ」ことにも挑んでいく決意を固めました。

「新春太鼓祈願」への想い

今回の「新春太鼓祈願」は「つなぐ」をテーマにしています。今福 優さんが育った故郷の小学校が、過疎化に伴い今年度末をもって閉校。未来に向けて道川小学校児童4名と同小OBとのオープニング演奏に始まり、地元若手と全国から集った若手、

そして今福 優さん率いる今福座が共演します。島根初上演となる大江戸助六太鼓は、宗家である小林正道氏から若手にその伝統がしっかりと引き継がれ、「つなぐ」ということを体現しているチームであることを観客の皆さんに観ていただきたいという今福 優さんの強い思いで実現しました。締めくくりは、今福 優さんを慕う若手太鼓打ちが全国各地より集い、大太鼓の共演を行ないます。今福 優さんがプロデュースする「新春太鼓祈願」をどうぞお楽しみください。



今福 優 IMAFUKU YUU

島根県益田市匹見町を拠点として活動している太鼓打ち。大太鼓の打ち込みに定評があり、自身の故郷に伝わる伝統芸能「石見神楽」をアレンジした作品も数多く生み出している。2004年～2008年、東京で開催されてきた『青山太鼓見聞録』に出演。近年は海外遠征も数多く行う。また、後進への指導にも力を入れており、和太鼓を通じて子供の育成や学校公演も積極的に取り組んでいる。
今福 優 公式WEBサイト <http://imafukuyuu.com/>

LIFE with グラントワ

グラントワを活かし未来へ

グラントワの利用促進のための事業をおこなう「芸術文化とふれあう協議会」の事務局をさせていただいています。協議会は益田市、吉賀町、津和野町、島根県、しまね文化振興財団で組織されており、学校や公民館向けの「交通費助成事業」や、児童・生徒のための「小中学校美術館無料化事業」、NHKの公開番組を誘致する「夢と未来創造事業」

など、さまざまな補助事業を実施しています。プライベートでも5colorsとして中庭やステージで歌わせてもらい、公私共にグラントワと親しんでいます。美しい中庭や素晴らしいホールで歌う時は、本当に心から「嬉しいな」と感じます。グラントワができて10年が過ぎ、多くの方が来館されている一方で「美術館やホールに入ったことがない」という方も未だにおられます。圏域の方々全員が、来館したことがあると言える未来を願いながら、協議会の事業を進めていきたいと思っています。

〔芸術文化とふれあう協議会事務局 麻生英治〕

PICK UP EVENT



企画展「芳年」関連プログラム

浮世絵×ダンス×石見神楽 「ウキウキ浮世絵、ヨシヨシ芳年」

2017年1月22日(日)
開場13:30 / 開演14:00
小ホール

昨年「仏像×ダンス」で大好評を博した、展覧会×ダンス×石見神楽のコラボ企画第2弾! ダンサー藤田善宏が、次に挑戦するのは「芳年の浮世絵」! 芳年の作品を題材にした石見神楽の上演に加え、活弁とダンスで表現する大胆不敵な浮世絵ダンス! 最後は神楽とダンスの競演まで、なんともバラエティに富んだプログラムで、新春のグラントワを盛り上げます! あなたも一緒に新しい鑑賞体験、しませんか?

〔出演〕藤田善宏(ダンサー、振付家)、あきたけだ、池田仁徳、酒井大輝(ダンサー)、益田市石見神楽神和会、坂本頼光(活動写真真弁士)
〔料金〕参加無料(ただし企画展観覧券(半券可)またはミュージアムパスポートが必要)

劇・場・を・探・る



舞台道具シリーズ 【搬入口】

劇場イベントで利用する様々な道具・機材等の荷物を館内に搬入するための大型の扉を「搬入口」と呼び、グラントワでは大・小ホールにそれぞれ設けられています。特に大ホール搬入口は、広い駐車スペースと屋根が備え付けられ、大型車でも天候を気にせず安全に荷物の積み下ろしが行えるよう配慮されています。

次回は「舞台上部のお話」です。

邦楽

平成28年度 邦楽地域活性化事業 総括演奏会

ガラ

コンサート

2016年12月11日[日]

いわみ芸術劇場大ホール 開場13:30 開演14:00

《入場料》※全席自由・税込
一般 1,000円[会員 800円]・高校生以下 500円

第一線で活躍する若手邦楽演奏家 9名がグラントワに集結します。響きあう和の調べをお楽しみください。

チケット発売中

写真:平成25年度邦楽地域活性化事業 あわびホール(徳島県徳島市文化会館)

グラントワ・カンタート

2017

日本語と合唱の魅力を探るレクチャー、美しい日本語歌唱を追究するコンクール、ロシア、中国の合唱団との交流コンサートを通して「日本語の歌」を深める3日間

2017年の幕開けに、日本各地の合唱団、ロシア、中国の合唱団が島根県に集う!! 「観るもよし、歌うもよし」の新しい合唱プロジェクト「グラントワ・カンタート」を開催します。

まなぶ あゆむ つなぐ

レクチャー 日本語と合唱～その魅力をさぐる
一作曲家、指揮者、声楽家からの発言をもとに—
2017年1月6日(金) 開場18:00 / 開演18:30
いわみ芸術劇場小ホール
入場料 / 一般 500円 (高校生以下、コンクールおよびコンサート出演者は無料)
〔基調講演〕 栗山文昭 [バネリスト] 寺嶋隆也、信長貴貴、藤井宏樹、青山恵子

あゆむ 美しき日本語のための 日本語歌唱による 合唱コンクール
2017年1月7日(土) 10:00~17:30(予定)
いわみ芸術劇場大ホール
入場料 / 大人 1,500円・高校生以下 500円
コンクール、コンサートセット券 2,000円
※未就学児入場不可、グラントワホール友の会割引あり
〔課題曲(委嘱曲)〕「貝殻」詩:新美南吉 曲:寺嶋隆也

つなぐ フレンドシップ コーラスコンサート
2017年1月8日(日) 10:00~18:00(予定)
いわみ芸術劇場大ホール
入場料 / 大人 1,500円・高校生以下 500円
コンクール、コンサートセット券 2,000円
※未就学児入場不可、グラントワホール友の会割引あり
〔ゲスト〕ロシア国立極東連邦大学合唱団(ウラジオストク)、寧波大学芸術学院合唱団(中国・寧波市)
〔合同演奏曲(委嘱曲)〕「こぼは魔法」詩:三好清子 曲:信長貴貴

チケット発売中

今福優 「つなぐ」

新春太鼓祈願 2017

2017年1月15日(日)

いわみ芸術劇場大ホール 開場13時 / 開演13時30分

大江戸助六太鼓 島根初上演

島根の和太鼓奏者今福優が率いる今福座の恒例の新春太鼓祈願。東京より招聘する大江戸助六太鼓は江戸っ子の粋な心意気を体現した太鼓。そして「つなぐ」をテーマに全国各地から集う若手太鼓打ちとの共演をお楽しみに。

入場料 [全席自由・税込]

一般 2,000円(当日) 2,500円
高校生以下 1,000円(当日) 1,500円
※未就学児入場不可、他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合はご退場いただく場合がございます。
※グラントワ総合案内センターにて販売 ※石見日報(1月15日)にて対象外

グラントワ共通カード・ホール友の会 会員様優待料金 1,000円(当日同料金。会員金 入場 2枚まで)

チケット発売中

総合プロデューサー 栗山文昭 (いわみ芸術劇場監修)
バネリスト・審判員 寺嶋隆也 (合唱指揮者)
バネリスト・審判員 藤井宏樹 (合唱指揮者)
バネリスト・審判員 信長貴貴 (作曲家)
バネリスト・審判員 青山恵子 (作曲家)
審判員 勝部俊行 (合唱指揮者)

赤瓦、赤瓦、赤瓦プロジェクト ここにしかない赤瓦ランドだからこそ!!

石見地域の景観を象徴する建築素材、石州瓦(通称・赤瓦)。
今回、“赤瓦”と“赤瓦の魅力”を伝えていく〈赤瓦プロジェクト〉について、
グラントワ副センター長・若槻真治さんにきいてみました。



江津市波子町 © Masanobu Takechi

グラントワは全身赤い(赤茶色)瓦で覆われています。使用枚数は約28万枚。内訳は屋根瓦12万枚と壁瓦16万枚です。この瓦の枚数は、奈良の大仏で有名な東大寺大仏殿の2.5倍、近年修復された姫路城天守閣の3.5倍の枚数ですから、これがいかに多いかわかるでしょう。

石見空港から市内へと向かっ

ている車の中で、ファッションデザイナーの森英恵さんが、外を見ながら「赤い瓦がきれいね」とおっしゃったことがあります。石見地域に来て、赤瓦に目を向けられる方は多いのです。実際は、赤瓦はこの地域だけではなく全国にありますから、それほど珍しいものではありません。石州瓦が運ばれた、北海道から九州までの日本海沿いや中国地方各地には、赤瓦の家や集落が点在しています。また、東北や北陸では、かつては石州瓦と同じように、赤瓦を生産していた地域もあったのです。しかし、石見には200年の伝統と蓄積があります。そして石州赤瓦の工

場は、現在この地方にしかありません。全体の軒数や集積率もやはりこの地域が多いでしょう。石見が赤瓦の本場であることに皆さんは気付かれるのです。

赤瓦で覆われたグラントワの魅力だけでなく、大森、江津本町、都野津、波子などの街並みの魅力。(株)丸惣や亀谷窯業(有)などの工場の魅力。こうした赤



江津本町 © Masanobu Takechi

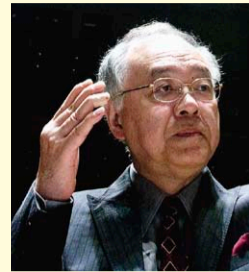


大田市大森町 © Masanobu Takechi

瓦の魅力全体をたくさんの方に伝えたい。日本だけではなく、世界中の人に知っていただきたい。知ってもらうだけではなく、できれば見に来ていただきたい。これがグラントワと石州瓦工業組合を中心に、大田市、江津市、浜田市、益田市で取り組んでいる〈赤瓦プロジェクト〉です。

本年度は、赤瓦の魅力を伝える動画の製作や、ツアーの造成を行います。石見の地域資源を活かした〈赤瓦プロジェクト〉に、乞うご期待!!

もうすぐ!
出番です!



栗山文昭
(合唱指揮者)

日本語は私たちの母語です。あなたも私も意識下で常にその母語で考え、感じ、行動しています。それは「うた」っていることなんだ、と思うことはありませんか? ときに口からでませのハミングをしたり、声を出して泣く声にメロディがあったり、いろんな場面であなとも私もうたっているのです。その原生のうたを、他の人に伝え、共に語りかけようとして合せる唄が生まれます。そこには美しい母語が必要です。これまで多くの方が、美しい日本語について研究し語られてきました。しかし、合唱曲では多くの指導者が努力を重ねてこられました。今回のような日本語に特化したレクチャーを合わせたコンクールは初めてです。ひとつの新しい流れのはじまりです。

「観るもよし歌うもよし」のグラントワ・カンタートに、ぜひこころと体をお運びください。素敵な空間と人々がお待ちしています。

栗山文昭 KURIYAMA FUMIAKI
島根県に生れる。指揮法を高階正光に、合唱指揮を田中信昭に師事。二期会合唱団、東京混声合唱団で研鑽を積み、現在13の合唱団を有する「栗友会」(りつゆうかい)の音楽監督及び指揮者として活躍する傍ら、21世紀の合唱を考える会合唱人集団「音楽樹」代表幹事として、「Tokyo Cantat」等の企画に携わる。武蔵野音楽大学教授、いわみ芸術劇場芸術監督。

みさき 美術館に よいて

コレクション展
「森鷗外先生、語る」
1月11日(水)
～2月26日(日)
会場: 展示室A



和田英作
《海神》
1918年

コレクション展「森鷗外先生、語る」について、
担当学芸員の左近充直美さんにきいてみました。

Q1. 面白いタイトルですが、どういう内容ですか?

軍医あるいは小説家として知られる森鷗外は、多くの日記や著作物を残しています。そのなかには、美術界の動向や美術家たちに関する記述が数多く出てきます。今回はその言葉を幾つか紹介しながら、鷗外と関係の深かった洋画家たちの作品を見ていきます。

Q2. 注目点はどんなところでしょうか。

ひとことで言うと、言葉に秘められた鷗外の鋭い「観察眼」です。美術界の動向を冷静かつ的確に捉え、未来を見据えた柔軟性のある審美感覚で美術評を展開しました。もし自分が同じ立場だったら、展示してある絵をどう評するか。鷗外にならう形で鑑賞してみると、また違った作品の側面がみえてくるかもしれません。

The 石見美術館 わたしのおすすめ Collection

学芸課嘱託員 田中志依

2人の女の子がおそろいの服を着ているのが印象的な一枚。イラストレーターのピエール・ブリソー (1885-1964) は柔らかく穏やかな作風で知られており、子ども服や、エレガントな女性服を手がけたデザイナー、ジャンヌ・ランヴァンの服をしばしば手がけました。

本作は、20世紀初頭のモードを牽引した重要な雑誌『ガゼット・デュ・ボン・トン』におさめられた、ファッションプレートとよばれる色鮮やかな版画のうちの一点。



ピエール・ブリソー
《訪問
ジャンヌ・ランヴァンの
アフタヌーン・ドレスと
子ども服》
『ガゼット・デュ・ボン・トン』PL.11.
1920年

コレクション展「おしゃれを描く」では、ファッションデザイナーよりむしろイラストレーターに注目し、「おしゃれ」を伝えた多彩な表現をご覧ください。

第11回定期演奏会
島根邦楽集団
指揮: 田村拓男
2017年3月5日(日)
12月11日(日) チケット発売
いわみ芸術劇場大ホール
開場13:30 / 開演14:00
一般前売 1,000円 [会員 800円]
一般当日 1,300円 [会員 1,100円]
全席自由・税込
高校生以下 無料

平成28年度 文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業
グラントワ
GRAND TOIT STRING ENSEMBLE
弦楽合奏団
今年も「東京アーティスト合奏団」をゲストに迎え、
弦楽が奏でる豊かな響きをお届けします。
第6回 定期演奏会
2017.3.12(日) 開場13:30 / 開演14:00
いわみ芸術劇場 小ホール
1月15日(日) チケット発売
【指揮】加藤幹雄 (島根県オーケストラ連絡協議会会長)
【ゲスト】東京アーティスト合奏団
【演奏曲】ヴァルディ 四季より「春」「夏」、
チャイコフスキー「花のワルツ」、パッヘルベル「カノン」他
一般前売 1,000円 [会員 800円]
一般当日 1,200円 [会員 1,000円]
高校生以下 無料
※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮願います。

石見美術館コレクション展

展示室A
コレクション展
あなたはどう見る?
—よく見て話そう美術について
1月2日(月)～2月27日(月)
※「はみだし情報」参照
3月1日(水)～4月3日(月)は、メンテナンスのため休室

展示室B
コレクション展
森鷗外先生、語る
1月11日(水)～2月26日(日)
※「美術館にきてみよう」参照
コレクション展
ファッションを伝える・拡げる
3月1日(水)～4月25日(火)
ファッションには流行がある、といわれますが、それは、ファッションを伝え、伝えられた人同士の間で拡がってはじめて成立するものです。この展示では雑誌や写真、版画など人と人との間を媒介し、流行を作ってきたものを展示します。

展示室C
コレクション展
おしゃれを描く
—ファッションプレートにみる女性の装い
1月2日(月)～2月27日(月)
※「The Collection わたしのおすすめ」参照
3月1日(水)～4月3日(月)は、メンテナンスのため休室

ミズ観に レビュー
・原画をたくさん観ることができたので嬉しかったです。初版との違いや、原画に色が塗られるのではなく、別に色を組み合わせていくというのは初めて知りました。(40代 女性 / 企画展「誕生60周年記念 ミッフィー展」)
・踊りや歌がとても上手でよかったです。本物(プロ)のミュージカルを観ることができて嬉しかったです。(60代 女性 / 「劇団四季ミュージカル『ウェストサイド物語』」)
・実話などの家族愛等のヒューマン的な映画が大好きなので、これからも期待しています。来月の「先生と迷い猫」もかならず見に来ます!(40代 女性 / グラントワシアター「母と暮せば」)

